

こんにちは婦人会「さくら」です

5月の初めは寒く、冬着でもちょうど良かったのですが、後半になり暑い日も多くなり半袖でも過ごせるようになりました。そして5月は、花の綺麗な季節でもあります。バラ、^{かきつばた}杜若、芍薬、菖蒲、山法師、皀月などなど、満開の花を目にしますね。お出かけが楽しい季節です。

先日のこと、知人に、あの花はなんていうの？と聞かれ、見ると細長い蕾に赤い花らしきものが少し咲いていました。あれはブラシの木よ。

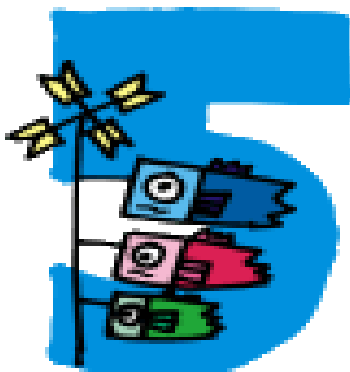
と答えたのですが、どんな花かしら・・・と首をかしげました。ご覧あれ！こんな花ですよー



～婦人会・暮らしのエッセンス～

端午の節句。 子供の日として、祝日となっていますが、もともとは、菖蒲や蓬^{よもぎ}を軒先にさして、邪気を払う日だったそうです（奈良時代に中国から伝わった風習）が、鎌倉時代頃から、武士のあいだで「菖蒲」が尚武（武をたつとぶ）の気風が強く「尚武・勝負」をかけて、端午の節句を尚武の節日として祝うようになった。やがて江戸時代になり徳川幕府の重要な式日に定められ、大名や旗本が、式服で江戸城に参り将軍にお祝いを奉じるようになった。また、将軍に男の子が生まれると表御殿の玄関前に馬印や幟を立てて祝ったようです。このような時代の変換の中で、薬草を積んで邪気を払うという行事が、

男の子の誕生の祝いへと結びついたと考えられます。菖蒲を軒に飾る「軒菖蒲」も、菖蒲湯につかる風習も現在にも残っていますね。（インターネット引用）



婦人会「さくら」
平成26年5月27日
第148号